

## 自治体の生涯スポーツイベント開催までの経緯に関する一考察

○竹田 隆行（スポーツ産業団体連合会） 松永 敬子（文教大学）

はじめに

通商産業省では、スポーツを巡る社会・経済の新たな動きに対応したスポーツ産業の健全な発展と国民がスポーツを身近に楽しめる環境づくりの方策を検討し、1989年10月にスポーツに関する有識者の参加を得た「スポーツ産業研究会」を開催した。研究会の中で、スポーツ産業振興の基本指針として「ニュースポーツメッカ構想」が提案された。この構想は、ニュースポーツの振興を地域経済に結びつけていこうとするものである。

この基本構想を基に社団法人スポーツ産業団体連合会は、ニュースポーツの特性である気軽に楽しめる「来場者参加型」のイベントとして、1989年静岡県をスタートとして、今年度で10回目を迎えた。これまでの開催記録は表2の通りである。種目は、来場者参加型のニュースポーツを中心に選定し、その地域に合わせた種目も採り入れて行っている。

社団法人スポーツ産業団体連合会は、スポーツ産業に関する調査・研究、イベント等の推進、情報の収集・提供を通じ、スポーツ産業の振興を図り、もって豊かな国民生活の実現と我が国経済の発展に寄与することを目的として、通商産業省の指導のもと1988年に設立された。連合会が生涯スポーツイベントの開催を実施する目的は、スポーツ活動のできる機会を提供し、スポーツ参加者を増やすことにある。スポーツ産業の活性化には、スポーツ参加者の底辺拡大が必要不可欠であるからである。

スポーツ産業低迷の主要因は経済不況の長期化だけでなく、スポーツが市民社会を基盤とせず、生活文化として確立していないことがあげられる。しかしながら、高齢化社会、自由時間等の人々の生活におけるスポーツの可能性はますます高まり、また運動不足と健康不安、生涯学習と自己実現等の生活意識の状況からも、スポーツの必要性は増大している。つまり、人々の生活におけるスポーツの可能性と必要性が大きくなってきており、生活の基盤となっている地域社会で供給されるスポーツの役割が重要になる。

そこで本研究では、これまで連合会が行ってきた自治体との生涯スポーツイベントについての実施報告、現状分析を行うことによって、地域での生涯スポーツイベントの在り方についての提案ができるものと思われる。スポーツ・健康都市宣言を行っている自治体は1996年10月時点で347になる。（みんなのスポーツ：1996）この数字は、現在さらに増えているものと思われる。このような状況を見ても、今回の報告は自治体が行っているスポーツイベント、スポーツ・健康都市宣言を行っている自治体にも大いに役立つものと思われる。

### イベント開催の実施報告

本イベントは、基本的に自治体との協力によって行われるものである。費用は、自治体と連合会からそれぞれ捻出する。イベントの開催地は、1) そのイベントには公益性があるか、2) 自治体の費用負担は可能か、3) 自治体の運営面に対しての協力は可能か等が連合会の事業部会で検討され決定される。自治体の協力がなければ、市民参加型のスポーツイベントの実施は難しいと思われる。特に、地方では自治体の広報活動が参加者の動員

に大きな影響を与えるからである。

表1は、連合会が自治体と協力して行った生涯スポーツイベントの経緯をまとめたものである。イベント開催は公益性があるものの記念事業の一環として行われたものがほとんどであると思われる。

表1. イベント開催の経緯

静岡県	ニュースポーツメッカの構想としてイベントを実施。
岩手県	岩手県産業文化センターに、新たに国際会議も可能なコンベンションホールを新設した披露の機会としての開館記念行事としてイベントを実施。
茨城県	那珂湊市と勝田市の合併により「ひたちなか市」が誕生した記念イベントとしてイベントを実施。
鹿児島県鹿屋市	霧島ヶ丘公園周辺を健康スポーツ交流拠点として整備する計画の一環としてイベントを実施。
福島県西会津町	町独自で行っていた桐下駄マラソンが10周年を迎えた記念イベントとして実施。
神奈川県横浜市	ポスト国体、ワールドカップ会場記念イベントとして実施。
熊本県熊本市	ポスト国体としてイベントを実施。

表2は、スポーツイベントの開催実績をまとめたものである。本イベントは、スポーツ参加者の底辺拡大を期待するものであり、その目的は概ね達成されているものと思われる。スポーツの普及・振興には、スポーツ参加者の底辺拡大だけでなく、高さ（レベルアップ）も必要である。イベント開催後、自治体がどれだけフォローアップしたかが問題である。

表2. スポーツイベントの開催実績

	開催地	会期	参加者数
第1回	静岡県	1991年7月24日～28日	35,900人
第2回	岩手県	1992年8月1日～2日	17,000人
第3回	岩手県	1993年8月21日～22日	21,000人
第4回	茨城県	1994年10月29日～30日	40,000人
第5回	茨城県	1995年9月23日～25日	42,000人
第6回	鹿児島県鹿屋市	1996年9月7日～8日	69,000人
第7回	鹿児島県鹿屋市	1997年10月25日～26日	75,000人
第8回	福島県西会津町	1998年10月31日～11月3日	51,550人
第9回	神奈川県横浜市	1999年10月9日～10日	118,700人
第10回	熊本県熊本市	2000年9月23日～24日	

※ 第10回 熊本開催は、現在報告書を作成中。

#### まとめ

地域での生涯スポーツイベントは、地域住民の潜在的なスポーツ活動を刺激するには大きな役割を果たすものと考えられる。しかしながら、潜在需要をいかに顕在化していくことが次なるステップである。そのためには、一過性のスポーツイベントを行うのではなく、イベントを継続していくことが必要である。

長期的な視野で生涯スポーツイベントの開催を行うこと必要があり、スポーツの普及・振興の先にスポーツ産業の活性化があるのであって、各地域で行ってきたスポーツイベントのノウハウをモデル化して情報発信することが、今後の連合会の役割であると思われる。

なお、発表当日は詳細なイベントの実施報告を行う。